

## I 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

### 1. 本学の建学精神

本学は、学校法人四天王寺学園が設置する大学・大学院である。学校法人四天王寺学園は、聖徳太子の仏教精神に則り学校教育を行うことを理念としている。したがって、本学においても、聖徳太子の精神、すなわち、すべての衆生を救わんとする大乘仏教の精神に則った教育が行われている。

聖徳太子は、推古元年（593年）に現在地に四天王寺を創建された際、四箇院の制をとられた。四箇院とは、敬田院、悲田院、施薬院、療病院からなる。敬田院は五重の宝塔を中心とした七堂伽藍であり、その周囲に他の三院が建てられた。敬田院は、人々が仏に帰依し、戒律を守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智慧をさとるところである。そして、悲田院は身寄りのない子や老人を寄宿させ、施薬院は薬草を栽えて薬を調合施与し、療病院は男女無縁の病人を寄宿させ療病するところであった。すなわち、これらは全ての衆生を救い、真実の自己を追求せんとする大乘仏教の精神を形としたものである。

また、聖徳太子は、推古15年（607年）に遣隋使を派遣され、約120年ぶりに中国王朝との国交を復活された。そして最新の学問と教えを求めて、多くの留学生や留学僧を派遣され、長期間の留学を経て帰国した彼らは、新国家建設の礎となった。さらに太子ご自身は生涯在家であられたが、著された三経義疏は、法華経、勝鬘経、維摩経の注釈からなり、後二者は、仏教の深奥を窮めた在家の男女の事績を題材とする。そして、はじめの国法として十七條憲法を定められた。

このように、すぐれた国際感覚を持ち、進取の気風を備え、世俗に深く係わり社会的な実践を行うことは、四箇院の制と同様、大乘仏教の精神の実践そのものである。四天王寺が教学の追求を専らとはせず、広く貴顕や衆庶の信仰を集め、たびたびの罹災で伽藍を失いながらその都度飛鳥時代の姿そのままに復興を遂げ今日に至るのは、一に世俗との交わりを重んじる「信仰の寺」として、太子の精神を実践してきたからに他ならない。

本学は、このような聖徳太子の精神を学ぶ場として、「敬田院」の伝統を現代にまで継続する大学・大学院なのである。本学に学ぶ者はこの聖徳太子の精神である大乘仏教の精神、すなわち全ての衆生を救う精神を体得し、真実の自己を追求することが大切であると教えられる。このように、慈悲と共生を基本とする大乘仏教の教えは、本学の学園訓において、「一、和を以て貴しとなす 一、四恩に報いよ 四恩とは国の恩 父母の恩 世間の恩 仏の恩なり 一、誠実を旨とせよ 一、礼儀を正しくせよ 一、健康を重んぜよ」と明示されており、また、時代の要請に応じて、この建学の精神を以下のような人材の育成を教育の目的として掲げることで、聖徳太子の仏教精神を現代社会において活かすための教育を行っている。

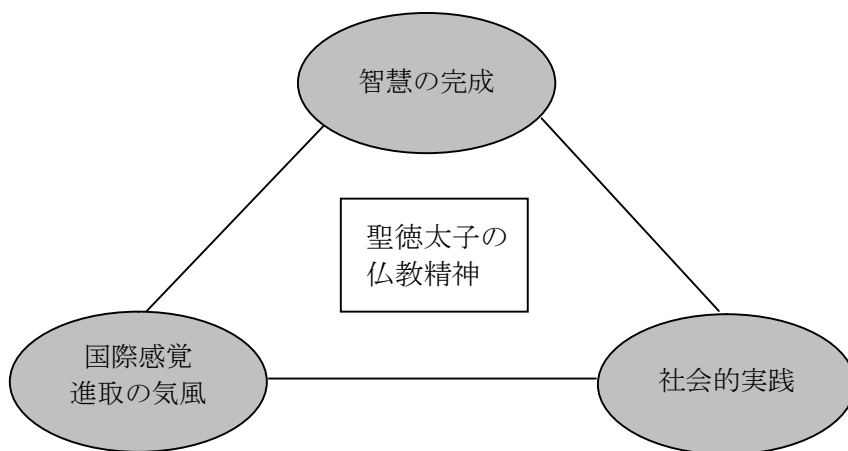
- ・己の利のみを求めず他者を尊重し調和を図る人材
- ・生活の糧を得る「知識」にとどまらず「智慧」による人格の完成を目指す人材
- ・そして、人類愛を体し人種・宗教の枠を越えて我が国と国際社会に貢献する人材の育成

## 2. 本学が目指す大学像

教育基本法および学校教育法に従い、聖徳太子が四天王寺を創建された精神に則り、深く専門の学術を研究教授し、教育研究機関として人文社会学部、教育学部、経営学部を設置し、さらなる教育および研究の充実、地域社会への貢献等、時代に即した様々な教育環境を整えている。また、複雑化、多様化する現代社会において必要とされる知識を広く授け、もって仏教精神を修得して人々の幸福のために献身し、豊かな教養とすぐれた知見をもち、国際社会で役立つ革新的な視野と行動力を養うことで、我国はもとより、国際社会に貢献し、めまぐるしく進化する社会をリードし、未来を築き上げられる有為な人材を育成することが本学の目指す大学像である。

聖徳太子の仏教精神を体して、本学は次のような人材の育成を図っている。

- ① 智慧の完成  
…他者との調和を図りながら生活の糧を得る知識にとどまらない智慧を得ること。
- ② 国際感覚・進取の気風  
…豊かな国際感覚を持ち、進んで最新の学問を摂取すること。
- ③ 社会的実践  
…実践的な知識や技術を体得し、社会への貢献を通じて自己の人格を高めること。



このように、すぐれた倫理観を持ち、礼節をわきまえ、豊かな教養と国際感覚そして高いコミュニケーション能力を備えた実務家および教育福祉方面を中心とする専門的職能者を社会に送り出すことが、本学の目指す大学像である。